

第49号 (2021-5/6月発行)

根郷 寿だより



発行 佐倉市立根郷公民館
〒285-0815 佐倉市城 343-5
☎ 043-486-3147 FAX 043-486-3686
E-mail negou-public@city.sakura.lg.jp
編集 根郷寿大学・根郷寿だより編集委員会

第49号発行にあたり

根郷寿だより編集委員会

「根郷寿だより」は開講後の毎年11月及び翌年3月の発行を目指して受講生と卒業生に投稿を呼び掛けて来ました。さらに昨年（令和2年）10月には根郷寿大学が開講50年を迎えることから、寿大学記念行事の開催に併せて記念号を発行することとし、投稿は受講生への呼び掛けに続き、この50年の間に寿大学運営をサポートして頂いた方々からの寄稿をお願いする予定でした。しかしながら、記念号への投稿を受講生に呼びかけた矢先に新型コロナウイルス感染拡大から令和2年度の根郷寿大学の休講が決定されました。本年（令和3年）度の募集についても、新型コロナウイルス感染防止から定員の大幅削減や2グループ分けを余儀なくされ、また授業内容や班活動の制約など多大な影響を及ぼすこととなってしまいました。一方、開始した「記念号」への投稿は、「50」をキーワードとして幅広く呼びかけるものであり、それに応じて既に幾つかのご寄稿を頂いております。本年度において受講生が一同に介しての記念行事も開催出来ない状況となったことから、根郷寿だより編集委員会としましては、さらなる「記念号」への投稿呼び掛けは断念し、昨年中に頂いた寄稿をそのまま（記載時日などの加筆修正を行わず）、本号（第49号）にて皆様にご紹介することと致しました。読者の皆様には、この事情をご理解頂き、我々の仲間たちの寄稿をお読み頂けますようお願い申し上げます。

さて、話を50年前に戻してみますと、昭和45（1970）年7月6日、軽量鉄骨2階建ての根郷地区公民館（当時の呼称）が開館し、備品等の充実を経て同年秋に根郷寿大学が開講されています。同年11月の「広報さくら」（No.182）では10月17日に行われた開講式の模様を、「この日は根郷地区の70才以上のお年よりが30名近く集まり、印旛地区公民館連合会長の沢渡先生のコマーシャルをまじえた楽しいお話に、耳を傾けていました。」と伝えています。講座予定については次のように記載されています。

11月10日（火） 「現代の科学」 藤倉電線工場見学

- 1 2月 8日 (火) 「現代の家庭」 佐倉市公民館長 永島正治先生
 1月12日 (火) 「佐倉市の歴史」 佐倉市史編纂主任 篠丸頼彦先生
 2月 9日 (火) 「植木、盆栽について」 県教育放送社会教育副主査
 高橋三千男先生
 3月 9日 (火) 閉講式

写真：在りし日の旧根郷公民館

{ 広報さくら (昭和45年8月1日号) より }

注：根郷寿大学は開講の翌年には、4月開講式、3月閉講式の1年間となり65歳以上を対象を拡大、さらに現在では60歳以上となるなど多くの受講生や卒業生に参加を頂いている講座となっています。



五十年前の私のふるさと

元寿大学生 福久 伍市

根郷寿大学が今年で創立五十周年だそうですが、五十年前の私は川崎市の武蔵小杉住んで居りました。駅から歩いてそう遠くはなかったが、家はポツポツ周囲は畑でした。

トウフ屋があり朝買いに行くと、出来立てのトウフをなべに入れてくれました。近くに風呂屋があり仕事から帰ってから風呂屋に行くのが一番の楽しみでした。

生まれた長女が今五十才になりました。人生五十年、長いようで短かく感じるのは苦しみも少なく過ごしてこられた事を感謝して居ります。つらかった事、いやな事など今になってみれば良い思い出です。小杉から羽田迄の通勤は大変でした。が今では高層ビルが立ち並び大都会になり東京まで三十分、横浜まで二十分と便利になりました。最近聞いた話ですが、若者が今一番住んでみたい所は武蔵小杉だそうです。若い人達の間では人気があるみたいです。私は小杉から千葉に来て今は佐倉が一番住み良い所と思っています。

根郷寿大学に学び感謝

元寿大学生 廣吉 正毅

仕事を辞めてからは、緑豊かなここ佐倉の地で、自分ながらのんびりと好き放題に暮らしていました。ところで、その何年か後に、心にぽっかり穴が空きました。毎日の暮らしに元気が無く、物事にやる気が出なくなりました。それで遣ること為す事、中途半端で納得がいきません。従って、その生活に満足感が無く、ふさぎ込む日が続きました。

このままでは、閉じこもりになり、私は駄目な人間になるかも知れない。それじゃ、これを何とかしなければいけない。この思いが胸の中に強く生まれました、そんな時、ふっと生涯学習という、言葉が脳裏に浮かびました。それから地域の情報ネットワークに当たってみました。しかし、残念なことに私が希望するサークルが、その時は見つからず半ば諦めていました。

だが、その後少したってから、私は根郷寿大学の受講者募集を「こうほう佐倉」で知ることになります。そこで、根郷寿大学の「生きがいを持って、充実した日々を過ごせること」と言う教育目標に感じ入りました。まさしくこれだと、にんまりしてしまいました。私が希望していた、高齢者教育にここで巡る会い、それが嬉しかったからです。その根郷寿大学で出会いから仲間をつくり、充実した人生を送りたい。この一心で応募し運よく入学が許されました。

さて、私の記憶によりますと、入学後は次のように学習をしたと思います。例えば、登

校日に先ず班毎のミーティングから始まり、そのあと講義が行われます。先生方は受講者に問題の要点を、わかり易く教えて下さいました。年をとり頭が固い私には、有難くたいそう勉強になりました。なかでも、「江戸期の佐倉地方の街道」の講義は、先生の時代考証の語りが印象に残りました。それは今でも思い出されます。

一方、校外授業では文化遺産を見学し、先人の知恵に驚きました。遠い昔の文化に触れて、当時の人々の生活をしのび、深く心に残りました。こうして私は、根郷寿大学で色々なことを学び、「生きがい」の大切さがわかりました。それに仲間もできました。

今は移り行く時間の中で、在学中の楽しかったことが、ときおり頭に浮かび懐かしく思い出されます。また、当時の館長さんを始め職員の皆様・並びに先生方に大変お世話になり、有難うございました。心から深く感謝しています。私は、これからも生きがいを持ち仲間をつくり、健康で充実した人生を、歩みたいと思っています。

【 和 歌 】 五班 齋藤 たかし
50年 過去の実績 積み重ね さらに絆を 未来に繋げ

【 作 詞 】 50周年に寄せて 五班 齋藤 たかし

1. 昭和平成過ぎ去りて 新たに令和の年が来た
「寿」歴史を積み重ね 「根郷」が冠(かぶ)り更にゆく
2. 関わる私も足運び 公民館に足掛けで
20を超えた歳月だ 若手にゆずる時が来た
3. 根郷の歴史振り返り 城(じょう)城跡(しろあと)に程近し
佐倉の街道ど真ん中 未来へつなぐ学舎(まなびや)だ

・満年齢で令和2年10月、根郷寿大学50周年を迎えた。「寿大学」(前)を「根郷寿大学」(現)へ近年名称を変更した。長い歴史の足跡です。

・50年前の私は彼の有名な先祖に似て、丁度働き盛り。その人物は父の従兄で東京電気化学工業株式会社(現TDK株式会社)の創業者・齋藤憲三です。自慢にならないが・・・。

『祝』寿大学開講50周年 二班 千々和 巖

～残念にもこの年コロナ騒動から休講となる～

丁度この年昭和45年(1970)長女が誕生、保管していた12月30日付新聞を開くと先ず、「70年経済10期連続上昇その反動、来年度景気に影」とあり、「弱電、自動車の目玉なくメーカー苦戦」と記事に有り、車排ガス、企業へドロ公害、光化学スモッグ等々の暗い記事が多く載っています。然し、経済発展の象徴、平和の祭典3月に「大阪万博開幕」私は会社の連中数人と東京から新幹線を使い見学、往復列車内でトランプで盛り上がり、万博よりも惨敗したこのトランプの記憶が懐かしく残ります。その後、赤軍派「日航よど号ハイジャック」事件から11月には作家「三島由紀夫」自決、この日、偶然にも商用でJR飯田橋に下車、市ヶ谷に近いこの駅前には騒然「まさかあの男が・・・」、あ然となり暫く駅前で人の話を夢中に聞いた記憶があります。

この年、テレビはカラー化時代を迎え新聞番組には番組毎に「カラー」と大きく表示がされていました。この年カラーテレビ普及率40%で半数以上の家庭が未だ、白黒テレビであったようです。この日の新聞「カラーテレビ」広告が一面大に載り、「13インチ」9万4千円、「16インチ」12万3千円と載るがこの年二重価格等で不買運動に発展、大幅価格ダウンするが当時のサラリーマンの平均給与から見て高額。

◎昭和45年度 十大ニュース (順位より)

- (1) 3月31日 赤軍派「日航よど号ハイジャック事件」

- (2) 11月25日 市ヶ谷自衛隊総監部で三島由紀夫自決
- (3) 3月～9月 「日本万国博覧会 大阪」
- (4) 公害市民運動、水俣、自動車排気、ヘドロ、米カドニウム、光化学スモッグ
- (5) 金融犯罪続発、富士、三菱銀行他、金融機関不正融資発覚、大物役員逮捕
- (6) 4月8日大阪地下鉄工事ガス爆発 死者79人 負傷者380人
- (7) 6月23日「安保自動延長」
- (8) プロ野球黒い霧騒動 一軍選手永久追放
- (9) カラーテレビ騒動 二重価格不買運動
- (10) 沖縄国政参加選挙実施

◎12月30日テレビ番組の一部

- 「NHK」 ・小説「虹」南田洋子他
・大河ドラマ総集編「樅の木は残った」平幹二郎他
- 「日本テレビ」・青島幸男ワイドショー ・11PM 江利チエミ他
- 「TBS」 ・「男の紋章」高橋英樹他 ・「ニューススコープ」古谷綱正
- 「フジテレビ」・漫画「ゲゲゲの鬼太郎」 ・劇「がめつい奴」三益愛子
・劇「おんぶにだっこ」船越英二
- 「テレビ朝日」・桂小金治アフタヌーンショー

編集後記（敬称略）

根郷公民館職員の方々の異動がありましたのでご紹介致します。（発令は4月1日付）

根郷公民館 館長 富田 健一郎、主査 齋藤 二三子、主査 岡本 茂幸
主査補 柳田 晴生（新任）、事務補佐員 戸田 さよ子
◇上村 充美（転出） 総務部人事課

根郷寿大学で受講する我々の活動を親身になって、ご指導・ご支援を頂いております。
今年もよろしくお願い申し上げます。

◇根郷寿だより編集委員（氏名に付した番号は①奇数月、②偶数月の受講生）

吉野 強三郎（②十班）、山城 安男（①二班）、犬丸 俊博（②八班）、
山田 礼子（②六班）

定例の次号50号は11月に発行を予定しており、投稿の期限を9月末とさせていただきます。今年を受講生を2グループに分けて運営されているため、「根郷寿だより」は両グループをつなぐ情報紙の意味合いも持っています。それぞれのグループから他のグループに向けての発信など、多くの方々からの投稿を期待しております。政治的主張、宗教勧誘、営業・宣伝等の内容でなければどの様な内容でも結構です。長文では1200文字以内でお願いしますが、俳句、短歌、川柳やグループ紹介（記載要件は前号48号参照）の投稿も大歓迎です。原稿は上記の編集委員や根郷公民館に持参して頂くか、電子メールによって投稿することが可能な方は、「根郷寿だより」表紙記載のメールアドレス宛にお送り頂いても構いません。宜しくお願い致します。 以上 犬丸 俊博（記）

【お詫び】 前（48）号の訂正とお詫び

3月に発行しました第48号に変換ミスがありましたので訂正させていただきます。ご投稿者へのご迷惑及び読者の方々へご不便をおかけしましたこと紙面を持ちましてお詫び申し上げます。

- ① 3ページ 29行目 （誤） 「前期」 → （正） 「前記」
- ② 3ページ 38行目 （誤） 「支持派」 → （正） 「指示は」